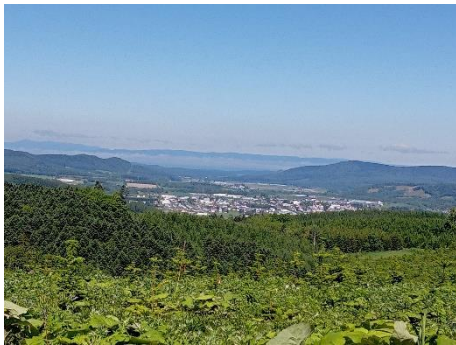


<新遺産の名称および概要>

1. しもかわの循環型森林文化（下川町）～森は光り輝く



下川町が目指し続けてきた持続可能な地域づくり。その基盤となる森林を生かすための理念が法正林^{※1}思想による「循環型の森林^{もり}づくり」。年間50haの伐採と植林、適正な森林管理を60年間続けることで、循環型の森林文化創造を実践している。

（※1：毎年の成長量に見合う分の立木を一定量伐採、植林することで、持続的な森林経営が実現される森林のこと）

2. 北海道米のルーツ「赤毛米」（北広島市）～人々の想いが育んだ地域の誇り



「赤毛」は、今や全国的なブランドとなった北海道米の先祖。寒さに強いこの種もみを使って、明治6(1873)年に、現在の北広島市島松の地で、中山久蔵翁が寒地稲作を成功させ、その後の北海道の米作りが発展した。「赤毛」は現在、見本田が造られ、商品開発がされるなど、地域の熱い想いにより保存され、引き継がれている。

3. 今金・美利河の金山遺跡（今金町）～^{しりべしとしべつ}後志利別川上流域の砂金採掘跡



美利河（ぴりか）地区の砂金採掘跡とその山奥にあるカニカン岳金山跡は、江戸時代前期に松前藩が行った大規模な金山開発によるものとされ、今も地表面に生々しく残る。流域沿いに10km以上遺跡が連なり、その範囲は国内最大規模。

4. 仙台藩白老元陣屋（白老町）～幕末と明治維新を生きた北の防人



蝦夷地警衛のため幕府が仙台藩に命じて安政3（1856）年に構築した、道内でも規模の大きな陣屋である。慶応4（1868）年に勃発した戊辰戦争により藩士たちが撤退するまでの12年間にわたり存続した。165年以上を経過した現在も往時の景観を残し、白老町では史跡と資料館を整備して、地域住民とともにその歴史を伝えている。

5. 十勝三股の樹海（上士幌町）～カルデラが生んだ生物多様性



約100万年前の大規模噴火でできた十勝三股カルデラは、エゾマツをはじめとする広大な森林が広がるとともに、永久凍土などの寒冷地、温泉などの地熱地帯も存在することで、多様な環境に暮らす生物が一堂に会し生物多様性を高めている。

6. 下の句かるた（北海道各地）～木札、下の句にみる遊びの文化



北海道へ入植した人々により大衆文化として道内に普及し、「木の札」であることに加え、小倉百人一首の下の句を読み上げる独特な競技は、ミステリアスな歴史の下、広く道民に親しまれてきた北海道特有の遊技である。

<既存遺産の名称変更の概要>

1. 経緯

江差町の北海道遺産「姥神大神宮渡御祭と江差追分」は、第1回選定で「姥神大神宮渡御祭」、第2回選定で「江差追分」がそれぞれ選定されていました。しかし、地域的な纏まりがあることから併せてひとつの名称として、第2回選定時に名称の決定・公表を行いました。この度、江差町から名称分離の要望を受け、地域の担い手の思い入れと主体性を重視し、人と遺産とのつながりを発展させる活動の継続を期待して、名称を変更し2つの遺産として改めて登録することとしました。

<変更後の遺産の名称および概要>

1. 姥神大神宮渡御祭～江差の歴史を伝える絢爛豪華な祭り



姥神大神宮渡御祭は、およそ370年前から続く、江差を彩る伝統ある祭り。毎年8月9日～11日に豪華絢爛な13台の山車（ヤマ）が、豊作・豊漁・無病息災を祈念して町中を練り歩く。

2. 江差追分～心沸き立つ、魂の唄



江差追分は、信州の馬子唄がルーツで日常生活の中で老若男女問わず唄い継がれてきた。「一度聞いて惚れ、二度聞いて酔い、三度聞いて涙する」といわれる唄の魅力により国内外に愛好者を持つ、北海道、日本を代表する民謡。

＜北海道遺産分布図（74件）＞

